

2025年度

国際IT・CAD科

1年生

授業計画（シラバス）

シラバス（授業概要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R1-K02
時間数は45分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Job hunting I 就職 I					国際 I T ・ C A D 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	三浦 千尋	
授 業 の 目 的						
就職活動を行い、内定を得るためには、就職試験対策に加え、採用システムの理解、業界研究が必須である。本科目では、世界でも独特な日本の採用システムを理解し、その準備を行う。製造業を中心に業界研究を行ったうえで、求人票の見方を学び、自ら志望する会社を選択できるようにする。また、履歴書の作成も行う。						
授 業 の 到 達 目 標						
1. 日本の就職活動（時期、流れ、必要なもの）について理解している。 2. さまざまな媒体で就職情報を得ることができる。 3. 履歴書を作成することができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	P B L		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
修了時課題			20%	10%	20%	50%
随時課題			10%	5%	5%	20%
随時テスト			10%	5%	5%	20%
授業態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
教員が適宜作成するプリント						

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R1-K05
時間数は 4 5 分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Business Writing 1 ビジネス文書作成 I					国際 I T ・ C A D 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	30	1	三 浦 千 尋	
授 業 の 目 的						
専門学校での学習や就職後の業務において、わかりやすい文章を書く能力は必須である。学生は、話し言葉と書き言葉を区別し、自分が伝えたいことを相手に理解してもらえる表現を学び、文章にしていける能力を身につける。本科目では報告書と履歴書の作成を通し、自分の文章を客観的に読む目を養い、ブラッシュアップしていく。また、専門科目の学習さらに就労時に必要となる製造系の専門用語も併せて習得していく。						
授 業 の 到 達 目 標						
(1) 読み手を意識した、読みやすい字を書くことができる。 (2) フォーマットに従い、報告書を書くことができる。 (3) 自分の文章を読み直し、自分で修正することができる。 (4) 製造系の専門用語を理解し、活用することができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
修了課題			15%	15%	10%	40%
修了試験			5%	5%		10%
随時課題			10%	15%	15%	40%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
『日本語ロジカルトレーニング 初級』（アルク）						

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授業概要）				年 度	2025 年度
				科目コード	R1-K07
時間数は 4 5 分換算					
授 業 科 目 名				学 科 ・ コー ス	
Business Etiquette ビジネスマナー				国際 IT ・ CAD 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	1	夏目 靖子
授 業 の 目 的					
日本での就職活動に必要なマナーを身につけ、面接に対応したコミュニケーション能力を磨く。 ビジネスマナーを学びながら日本の社会のしくみを理解する。					
授 業 の 到 達 目 標					
① 日本のビジネスで重視される人物像を理解している ② ビジネスの身だしなみ、立ち居振る舞い、言葉遣いをすることができる。 ③ 面接を想定した場面でふさわしい会話、所作ができる					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義		演習	○	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ	○	P B L		反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	
その他					
成 績 評 価 の 方 法					
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度
評価項目					配点計
ロールプレイング			%	%	50%
自己 PR 文			%	30%	20%
			%	%	%
			%	%	%
			%	%	%
			%	%	%
			%	%	%
使用テキスト・教材					
浜松未来総合専門学校「就職の手引き」 講師作成資料プリント 演習問題					

[illegible]

その他
この科目は、実務経験のある教員が担当する科目である。

関連科目

シラバス（授業概要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R1-K08
時間数は45分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Business Mail ビジネスメール					国際 I T ・ C A D 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	30	1	金田 雅美	
授 業 の 目 的						
現在においてもビジネスの連絡事項には一般的にメールが使われている。ビジネスにおけるメールのマナー、フォーマット、表現等を学び、就職活動および就職後に自由にメールでやりとりができるスキルを習得することを目的とする。						
授 業 の 到 達 目 標						
①ビジネスメールで使用する用語を理解し、使用することができる ②ビジネスメールのフォーマットにならってメールを作成することができる ③メールに利点および注意点を知り、適切にメールを使用することができる						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了課題		20%	20%		40%	
随時課題		20%	10%	20%	50%	
授業態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
教員が準備するプリントを使用						

[illegible]

シラバス（授業概要）		年 度	2025 年度		
		科目コード	R1-K09		
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名				学 科 ・ コー ス	
Business communication 1				国際 I T ・ C A D 科	
ビジネスコミュニケーションⅠ					
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	1	金田 雅美
授 業 の 目 的					
就職活動を開始するにあたり、自分自身のことのみならず、日本社会や文化について知り、自分なりの考えを持つ必要がある。本科目では、日本の文化、社会、生活についてグループワークをとおして理解・考察し、それを伝える能力を身につける。またそれを元に、自分が日本社会に向けてアピールしたい自己PRを作成する。					
授 業 の 到 達 目 標					
①日本文化、社会、生活について調べ、自分なりの意見を述べることができる ②協同作業をとおし、自らの役割を見つけ、果たすことができる ③日本社会を理解した上で、自己PRを作成することができる					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ		P B L	○	反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○
その他					
成 績 評 価 の 方 法					
評価観点		知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目					
修了課題		10%	20%	10%	40%
随時課題		20%	10%	10%	40%
授業態度（グループワーク貢献度）				20%	20%
使用テキスト・教材					
『人と社会をつなぐ日本語』（アスク）					
授業内容・授業計画					

[illegible]

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R1-K11
時間数は45分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Advanced Japanese 1 応用日本語 I					国際 I T ・ C A D 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	選択	60	2	神谷・三浦・青嶋	
授 業 の 目 的						
第二言語である日本語を用いて、専門学校で専門知識を学び、就職活動を行っていけるように、日本語能力の向上を目指す。本科目では総合教科書を用い、読解力、語彙力、文法力をバランスよく身に付けていく。また、教材を通し、一般的な日本文化についても習得していく。						
授 業 の 到 達 目 標						
・ 日本語能力試験 N2 レベルの日本語力を身につける。 ・ 著名な日本人、その文化について基本的な知識を得る。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
随時テスト			20%			20%
期末テスト			30%	10%		40%
課題への取り組み					20%	20%
授業態度					15%	15%
出席率					5%	5%
使用テキスト・教材						
『The Great Japanese 初中級』（くろしお出版） 『The Great Japanese 中上級』（くろしお出版）						
授業内容・授業計画						

[illegible]

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授 業 概 要）		年 度	2025 年度			
		科目コード	R1-K15			
時間数は4 5 分換算						
授 業 科 目 名				学 科 ・ コー ス		
Japanese Culture 1 日本文化 I				国際 I T ・ C A D 科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	選択	30	1	青嶋 晶子	
授 業 の 目 的						
・ 日本文化や社会を学び、日本で活動する力を育てる ・ 協働学習を通してコミュニケーション力の向上を図る ・ 日本社会の基本的な知識を学び、日本語力の底上げを図る						
授 業 の 到 達 目 標						
・ 日本の伝統文化、地域社会について日本語で話ができる ・ どのような分野の話題にも関心を持つことができる						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		P B L	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
修了試験			10%	10%	10%	30%
修了課題			10%	10%	10%	30%
随時試験			20%	10%		30%
授業態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
『2025 年度版 ニュース検定公式テキスト入門編』（毎日新聞出版）						

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授業概要）					年 度	2025 年度	
					科目コード	R1-K21	
時間数は 4 5 分換算							
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス		
IT Basic Skills 1 I T 基礎技術 I					国際 I T ・ C A D 科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	前期	必修	60	2	高橋 恵子		
授 業 の 目 的							
昨今スマートフォンの普及により、パソコンの操作に不慣れな学生が増えている。しかし、ビジネスの現場ではパソコンは必須であり、自由に操作できるスキルが求められる。 本科目では、パソコンの基本操作、仕組み、設定を学ぶ。特にエンドユーザーとしてパソコンを使用するだけでなく、簡単なトラブルに対応できるまでを習得範囲とする。Office に関しては Excel を中心に学び「表計算検定」合格を目指す。							
授 業 の 到 達 目 標							
①window11 の基本操作が自由にできる ②プリンタ、メール、写真の取り込み等を行うことができる ③タイピングおよび Microsoft office の Word、Excel の基本操作ができる							
授業方式							
対面	○	ライブ型		オンデマンド型			
授業形態							
講義		演習	○	実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ		P B L		反転授業			
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○		
その他							
成 績 評 価 の 方 法							
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計	
評価項目							
課題			20%	10%	10%	40%	
期末試験			50%			50%	
授業態度					10%	10%	
使用テキスト・教材							
『よくわかる初心者のためのパソコン入門 win11 版』 FOM 出版 『情報処理技能検定試験 表計算 模擬問題集』 日本情報処理検定協会							

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R1-K23
時間数は 4 5 分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Presentation Skills 1					国際 I T ・ C A D 科	
プレゼンテーション技法 I						
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	30	1	青嶋 晶子	
授 業 の 目 的						
プレゼンテーションは、専門科目の授業や就職活動、業務等、ありとあらゆる場所で必要となる能力である。本科目では、自分の考えをわかりやすく相手に伝えるためのプレゼンテーションスキルを習得する。プレゼンテーション制作の流れに沿って情報収集、資料作成を行い、プレゼンテーションパフォーマンス力を向上させる。						
授 業 の 到 達 目 標						
①自分の意見、考えを明確かつ説得を持って相手に伝えることができる ②見やすく、わかりやすい資料を作成することができる ③正しい発音と適切なスピードで話すことができる						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		P B L	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習	○	教えあい授業		
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
修了課題（発表）			10%	20%	20%	50%
随時課題			10%	10%	10%	30%
授業態度（グループワーク貢献度）					20%	20%
使用テキスト・教材						
『初級文法でできる にほんご発音アクティビティ』（アスク出版）						

[illegible]

その他

関連科目

プレゼンテーション技法Ⅱ

シラバス（授業概要）					年 度	2025 年度
					科目コード	T1-K28
時間数は45分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Human Resources 1					国際 I T ・ C A D 科	
人的マネジメントと組織 I						
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	30	1	三浦 千尋	
授 業 の 目 的						
会社組織とそれを形成する人間関係について学ぶ。 会社組織では学生と異なった人間関係が構築される。また、会社組織そのものも会社によって異なる。本科目では特に製造業における会社組織について学ぶ。						
授 業 の 到 達 目 標						
①会社組織に関連する用語について理解し、使用することができる ②会社の HP やパンフレットなどから、その会社の組織について読み取ることができる ③さまざまな企業の話聞いて、説明を理解することができる						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		P B L	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
修了課題			10%	10%	10%	30%
随時課題			10%	10%	10%	30%
随時試験			10%	10%		20%
授業態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
教師作成資料						

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授業概要）					年 度	2025 年度
時間数は45分換算					科目コード	R1-K30
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Sales Management 1					国際 I T ・ C A D 科	
営業マネジメントⅠ						
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	30	1	山田 穎二	
授 業 の 目 的						
マネジメントとは「組織に成果をあげさせるもの」。組織（CAD）の使命を知り、組織の使命から顧客の求めている商品を作り、価格や販売方法など総合的に考え利益について考えます。 「誰に・どのような価値を・どのようにして提供するか」を習得するために考察します。						
授 業 の 到 達 目 標						
(1) 正しい日本語で記述できる (2) マネージメントの基本を習得できる (3) 製造業にとってのマネージメントを習得できる (4) マネージメントにおける商品を知ることができる						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
定期テスト（筆記）			40%			40%
随時テスト（筆記）			50%			50%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
なし						

[illegible]

シラバス（授業概要）		年 度	2025 年度		
		科目コード	R1-K32		
時間数は 4 5 分換算					
授 業 科 目 名				学 科 ・ コー ス	
Algorithm アルゴリズム				国際 I T ・ C A D 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	選択	30	1	三浦 千尋
授 業 の 目 的					
アルゴリズムは、プログラミングを行う上で基礎となる重要な考え方である。はじめてプログラミングを学習する学生にも取り組みやすいように、ビジュアル的にわかりやすい Scratch を用いて、変数、配列、サーチ、ソート等、アルゴリズムの基本を学ぶ。また、フローチャートを読んでプログラムの流れを理解したり、フローチャートを作成したりできるようにする。					
授 業 の 到 達 目 標					
(1) アルゴリズムを理解するのに必要な用語を理解し、説明することができる。 (2) コンピュータに実行させる処理の流れを考え、フローチャートで表すことができる。 (3) フローチャートを読んで、プログラムを書くことができる。 (4) 自分が作ったプログラムについて、処理を説明することができる。					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義		演習	○	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○
ロールプレイ		P B L		反転授業	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○
その他					
成 績 評 価 の 方 法					
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度
評価項目					配点計
修了試験（筆記&実技）			20%	20%	40%
随時テスト（筆記）			20%		20%
随時課題			10%	10%	30%
受講態度				10%	10%
使用テキスト・教材					
講師作成プリント					

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R1-K33
時間数は4 5 分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Machinaly Control Foundation 機械制御基礎					国際 I T ・ C A D 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	岡田 靖志	
授 業 の 目 的						
リレーシーケンスの基本回路を理解し、シーケンス制御の基礎を習得する。一人1台の実習ボードを使用し、配線して動作確認をする実習を行う。						
授 業 の 到 達 目 標						
・ リレーの構造がわかる。 ・ シーケンス制御の基本回路を理解し、シーケンス図が書ける。 ・ 基本的なシーケンス回路が設計出来、シーケンス図を見ながら配線できる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
修了時テスト（筆記）			50%			50%
実技テスト			40%			40%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
テキスト：リレーとシーケンサ 教材等：リレーシーケンス実習機材						

[illegible]

シラバス（授業概要）		年 度	2025 年度		
		科目コード	R1-K35		
時間数は 4 5 分換算					
授 業 科 目 名				学 科 ・ コー ス	
Control Programming 1 制御プログラミング I				国際 I T ・ C A D 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	1	宮木 孝
授 業 の 目 的					
アルゴリズムの授業で学んだフローチャートの技術を教育用ロボット Dobot Magician を動かすプログラミングにより実現する。プログラミングの基本を学びながら、ものづくりに活かせるプログラム作成を学習する。創造性を発揮するプログラミングが体験できる S T E M 教育を目指す。実習では、各種センサーを用いてプログラムによって動きをコントロールするものづくり演習を行ない、身の回りで日常化されている組込み型プログラムの理解を深めていく。					
授 業 の 到 達 目 標					
(1) プログラムを記述・実行するための手順を理解し、説明できる。 (2) プログラムに必要な機能を理解し、説明できる。 (3) しくみを考え、プログラムとして表現できる。 (4) プログラム中の誤りを発見し、修正することができる。 (5) 問題点を把握し、解決策をみつけて、問題を解決することができる。					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義		演習	○	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○
ロールプレイ		P B L		反転授業	○
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○
その他					
成 績 評 価 の 方 法					
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度
評価項目			配点計		
修了時テスト（筆記）			40%		40%
課題				40%	10%
受講態度					10%
使用テキスト・教材					
『Dobot lab プログラミングガイド』（アフレル学び研究所）					

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授業概要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R1-K37
時間数は 4 5 分換算						
授 業 科 目 名					学科・コース	
Basic Drafting 基礎製図					国際 I T ・ C A D 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	60	2	山田 隆博	
授 業 の 目 的						
C A D技術者は図面を描き、読むことができる知識が必要不可欠である。 ここでは、J I S規格に従い、機械製図の基礎的な知識・方法、及び立体表現に必要な図学の基礎知識、製作図の作成についての知識を習得し、C A D技術者としての基礎を身につける。						
授 業 の 到 達 目 標						
(1) 製図のJ I S規格を理解している。 (2) 立体を、投影法を用いて平面で表現できる。 (3) 平面図を、立体的にとらえることができる。 (4) 最適な寸法表記ができる。 (5) 機械要素について名称と特徴を理解することができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L		反転授業	○	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
修了時テスト（筆記）			20%	20%		40%
中間時テスト（筆記）			20%	10%		30%
課題			10%	10%		20%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
『C A D利用技術者試験 2次元公式ガイドブック』（コンピュータ教育振興協会） 『機械製図 練習ノート』（実教出版）						

[illegible]

シラバス（授業概要）					年 度	2025 年度	
					科目コード	R1-K38	
時間数は 4 5 分換算							
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス		
Manufacturing Technology 製造技術					国際 I T ・ C A D 科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	通年	必修	30	1	宮木 孝		
授 業 の 目 的							
モノづくりに必要な測定器、工具、加工機械の種類や使用方法を、実習を行ないながら習得する。							
授 業 の 到 達 目 標							
・ノギス、マイクロメータの使い方がわかる。 ・各種工具の用途を理解し、適切に選択し使用することが出来る。 ・ボール盤、ノコギリ盤等の基本的な加工機械の安全な使い方を習得する。							
授業方式							
対面	○	ライブ型		オンデマンド型			
授業形態							
講義	○	演習		実験・実習・実技	○		
アクティブ・ラーニング							
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ		P B L		反転授業			
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○		
その他							
成 績 評 価 の 方 法							
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計	
評価項目							
修了時テスト（筆記）			60%			60%	
随時テスト（筆記）			30%			30%	
受講態度					10%	10%	
使用テキスト・教材							
『ゲンバの日本語 単語帳 製造業』（スリーエーネットワーク）							

[illegible]

シラバス（授業概要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R1-K39
時間数は45分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Machinaly Computer Aided Desing Foundation					国 際 I T ・ C A D 科	
C A D 基 礎						
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	90	3	山田 隆博	
授 業 の 目 的						
昨今、ものづくりにおいて、C A Dは欠かせないツールとなっている。 この授業では、世界標準となっているC A Dソフト Autodesk 社の Inventor（3次元）を使用して、C A Dによる図面作成ができることを目指す。						
授 業 の 到 達 目 標						
(1) 3次元C A D（Inventor）の基本的な操作を習得する。 (2) 図面作成に必要な三面図の考え方を理解し、投影図が実際に描けるようにする。 (3) 基本的な機械製図の読み方を習得する。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L		反転授業	○	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
修了時テスト（課題）			50%			50%
課題			40%			40%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
・『図解 Inventor 実習 第3版』（森北出版） ・演習課題（オリジナルプリント）						

[illegible]

その他
この科目は、実務経験のある教員が担当する科目である。

関連科目
・ 基礎製図 ・ 機械C A D応用 ・ 機械制御応用

この科目は、実務経験のある教員が担当する科目である。

- 基礎製図
- 機械C A D応用
- 機械制御応用

[illegible]

シラバス（授業概要）			年 度	2025 年度	
			科目コード	R1-K43	
			時間数は 4 5 分換算		
授 業 科 目 名				学 科 ・ コー ス	
Qualification Test Measures 1				国 際 I T ・ C A D 科	
資格検定対策 I					
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	1	山田 隆博
授 業 の 目 的					
C A Dを利用するための知識を持ち、さらに図面を正しく理解してC A Dを利用した作図を効率的にこなすことができる技能を証明できる試験制度として、2次元C A D利用技術者試験がある。このファーストステップとして「基礎」ランクがある。就職で有利にたつ資格を得るために、合格をめざす。					
授 業 の 到 達 目 標					
(1) C A Dシステムの知識と機能を理解している。 (2) C A Dシステムのプラットフォームについて理解している。 (3) 製図の知識を理解している。 (4) 図形の特徴を理解している。 (5) 2次元C A D利用技術者試験基礎に合格することができる。					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義		演習	○	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ		P B L		反転授業	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○
その他					
成 績 評 価 の 方 法					
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度
評価項目					配点計
検定試験（I B T）			20%	10%	30%
課題（Forms）			40%	20%	60%
受講態度					5%
出席状況					5%
使用テキスト・教材					
『C A D利用技術者試験2次元公式ガイドブック』（コンピュータ教育振興協会） 『機械製図 練習ノート』（実教出版） ・三角定規とコンパス					

[illegible]

その他
この科目は、実務経験のある教員が担当する科目である。

関連科目 ・機械C A D基礎 ・機械C A D応用 ・ものづくり演習

- ・機械C A D基礎
- ・機械C A D応用
- ・ものづくり演習

2025年度

国際IT・CAD科

2年生

授業計画（シラバス）

シラバス（授業概要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R2-K03
時間数は45分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Job hunting 2 就職Ⅱ					国際 I T ・ C A D 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	20	1	三浦 千尋	
授 業 の 目 的						
本格化する就職活動の中で内定を得るために、エントリーシート、履歴書、面接、とそれぞれのフェーズを突破していく能力を身に着ける。						
授 業 の 到 達 目 標						
1. 面接において、質問の意図をくみ、答えることができる。 2. 企業情報を正確につかみ、履歴書、面接に反映することができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	P B L		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点		知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計	
評価項目						
修了時実技		10%	20%	10%	40%	
随時実技		10%	20%	10%	40%	
授業態度				20%	20%	
使用テキスト・教材						
なし						

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授業概要）		年 度	2025 年度		
		科目コード	R2-K04		
時間数は45分換算					
授 業 科 目 名				学 科 ・ コー ス	
Work Preparation 就労準備				国際 I T ・ C A D 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	20	1	三浦 千尋
授 業 の 目 的					
製造業で新社会人として働ける準備を行う。1年次から取り組んできた専門用語を使い、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション等、ケーススタディを盛り込んで実践的に学ぶ。新入社員研修のプレ研修の位置づけとして行う。					
授 業 の 到 達 目 標					
①製造業で使う専門用語を使用することができる ②ビジネスで想定される場面で適切な対応をすることができる					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習		実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ		P B L		反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	
その他					
成 績 評 価 の 方 法					
評価観点		知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目					
修了課題		20%	10%	10%	40%
随時課題		10%	10%	10%	30%
随時試験		20%			20%
授業態度				10%	10%
使用テキスト・教材					
講師が準備する資料					

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授業概要）				年 度	2025 年度
				科目コード	R2-K06
時間数は 4 5 分換算					
授 業 科 目 名				学 科 ・ コー ス	
Business Writing 2				国際 I T ・ C A D 科	
ビジネス文書作成Ⅱ					
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	1	三浦 千尋
授 業 の 目 的					
ビジネスシーンにおいて、文章を読んだり作成したりする場面が非常に多い。本科目では、業務を円滑に遂行していくためのビジネス文書作成技術を学ぶ。就職後すぐに作成する機会が訪れる報告書の作成を軸に、各種ビジネス文書の内容、提出のタイミング、事実と意見の表現方法の違いを学び、相手に伝わる、わかりやすい文書を作成する知識と技術を習得する。さらに、業務で使用する専門用語を正しく理解し、文書に取り入れることができるようにする。					
授 業 の 到 達 目 標					
(1) 各種ビジネス文書の目的と内容が理解できる。 (2) 各種フォーマットに合わせて、文書を作成することができる。 (3) 適切な表現を使い、相手にとってわかりやすい文書を作成することができる。 (4) 専門用語を正しく理解し、使用することができる。					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ		P B L		反転授業	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○
その他					
成 績 評 価 の 方 法					
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度
評価項目					配点計
修了課題			15%	15%	10%
修了試験			5%	5%	10%
随時課題			10%	15%	15%
受講態度					10%
使用テキスト・教材					
教師が準備するプリント					

[illegible]

シラバス（授業概要）		年 度	2025 年度			
		科目コード	R2-K10			
時間数は45分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Business Communication 2					国際 I T ・ C A D 科	
ビジネスコミュニケーションⅡ						
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	60	2	夏目 靖子	
授 業 の 目 的						
日本での就職活動で、内定獲得のために必要な考え方、心構え、礼儀作法等を身につけ、日本の社会で選ばれ、役立ち、喜ばれ、活躍できる人財になるための基礎・基本を学ぶ。						
授 業 の 到 達 目 標						
(1) 就職活動に必要なマナーを身につけ、きちんとした挨拶ができる。 (2) 就職活動で実施される面接試験で、自分の働く意欲・熱意を伝えることができる。 (3) 応募企業から内定（オファー）をいただくことができるようになる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ	○	P B L	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
修了時テスト（筆記）			30%			30%
随時テスト（筆記）			20%			20%
課題（実技含む）			30%			30%
受講態度（日常観察点）					5%	5%
出席状況					15%	15%
使用テキスト・教材						
演習課題（オリジナルワークシート）						

[illegible]

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R2-K12
時間数は 4 5 分換算						
授 業 科 目 名					学科・コース	
Advanced Japanese 2					国際 I T ・ C A D 科	
応用日本語Ⅱ						
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	選択	30	1	三浦 千尋	
授 業 の 目 的						
第二言語である日本語を用いて、日本社会で働き、生活していくための日本語力を身に着ける。 本科目では、上級レベルの教材を使用し、ビジネスレベルの語彙力、文法力、読解力をバランスよく習得していく。						
授 業 の 到 達 目 標						
・ 日本語能力試験 N1 レベルの日本語力を身につける。 ・ 上級レベルの日本語を理解し、運用することができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
随時テスト			20%			20%
期末テスト			30%	10%		40%
課題への取り組み					20%	20%
授業態度					15%	15%
出席率					5%	5%
使用テキスト・教材						
『テーマ別 上級で学ぶ日本語』（研究社） 『テーマ別 中級から学ぶ日本語』（研究社）						

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R2-K14
時間数は 4 5 分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Measures for Japanese Language Qualifications 2					国際 I T ・ C A D 科	
日本語資格対策Ⅱ						
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	選択	60	2	三浦 千尋	
授 業 の 目 的						
日本語能力試験（JLPT）は就職活動や就労ビザ申請において日本語能力を証明する重要な試験である。本科目では、日本語能力検定試験 N1 の合格を目指し、試験対策を行う。						
授 業 の 到 達 目 標						
・ 日本語能力試験 N1 の合格						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
確認テスト			30%	%	%	30%
期末テスト			30%	10%	%	40%
授業態度			%	%	20%	20%
出席率			%	%	10%	10%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
			%	%	%	%
使用テキスト・教材						
『日本語能力試験問題集 N1 語彙必修パターン』（J リサーチ）						

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授業概要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R2-K16
時間数は45分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Japanese Culture 2					国際 I T ・ C A D 科	
日本文化Ⅱ						
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	60	2	三浦 千尋	
授 業 の 目 的						
より日本文化に親しみ、理解するための上級レベルの日本語を学ぶ。 本科目では、応用日本語Ⅱの授業で使用するテキスト『上級で学ぶ日本語』のワークブックを用い、 習得した語彙、文法を駆使し、さらに一歩進んだ音声や読み物に触れる。また、内容理解に必要な 日本の文化風習、日本人の考え方も併せて習得していく。						
授 業 の 到 達 目 標						
1. 日本文化風習、日本人の考え方についての知識が得る。 2. 難解な日本語に接した場合、自ら調べ、意味を理解することができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
修了試験			15%	15%		30%
随時試験			15%	15%		30%
随時課題			10%	10%	10%	30%
授業態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
『上級で学ぶ日本語 ワークブック』（研究社） 『中級から学ぶ日本語 ワークブック』（研究社）						

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R2-K22
時間数は4 5 分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
IT Basic Skills 2					国 際 I T ・ C A D 科	
I T 基 礎 技 術 II						
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担 当 教 員	
2	前期	必修	30	1	高橋 恵子	
授 業 の 目 的						
Excel 関数操作方法を習得し、会計用語等の日本語の知識を深める。 日本情報処理検定協会「表計算」検定合格を目標として操作技術の向上をはかる。						
授 業 の 到 達 目 標						
日本情報処理検定協会 「表計算3級」以上合格を目標として操作技術の向上をはかる。						
授 業 方 式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授 業 形 態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
課題			20%	10%	10%	40%
期末試験			40%			40%
授業態度					10%	10%
出席率					10%	10%
使用テキスト・教材						
『情報処理技能検定試験 表計算 模擬問題集』 日本情報処理検定協会						

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授業概要）		年 度	2025 年度		
時間数は45分換算		科目コード	R2-K24		
授 業 科 目 名			学 科 ・ コー ス		
Presentation 2 プレゼンテーション技法Ⅱ			国際 I T ・ C A D 科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	1	青嶋 晶子
授 業 の 目 的					
相手に「伝わる」ことを意識したプレゼンテーション技法Ⅱを身につける。プレゼンテーションに至るまでの調査、相手とのインフォメーションギャップを意識した情報の取捨選択に重点を置いて原稿づくりを行う。また、要点をまとめたスライドを作成し、相手に伝わる、分かりやすいプレゼンテーションができるようになることが本科目の目的である。					
授 業 の 到 達 目 標					
①プレゼンテーションに必要な調査を行うことができる ②相手とのインフォメーションギャップを意識した原稿づくりができる ③見やすくわかりやすいスライドを作ることができる ④声のトーン、表情などを意識してプレゼンテーションをすることができる					
授業方式					
対面	○	ライブ型		オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	○
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○
ロールプレイ		P B L		反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	
その他					
成 績 評 価 の 方 法					
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目					
修了課題（プレゼンテーション）		10%	20%	10%	40%
随時課題（プレゼンテーション）		10%	10%	20%	40%
授業態度（グループワークの際の貢献度）				20%	20%
使用テキスト・教材					
プリント資料、演習課題（講師作成）					

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授業概要）	年 度		2025 年度		
	科目コード		R2-K25		
時間数は 4 5 分換算					
授 業 科 目 名					学科・コース
Business Administration 経営学概論					国際 I T ・ C A D 科
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必須	30	1	小野 哲
授 業 の 目 的					
製品を設計・生産する上で必要となる関連知識を総合的に学習する。 特に、近年後工程を意識した製品設計、コストを意識した設計業務が求められており、益々幅広い知識が求められている。 製造業全般に関わる「言葉」を理解し、世界で通用する業務知識を習得する					
授 業 の 到 達 目 標					
製造業に関わる日本語を理解できるようにする 製造業に携わる者として工場の骨格（注文・人・金・モノ・設備・情報）を理解し、工場の運用業務、管理業務を知ることによって社会人としての知識を身に着ける また、最新技術についての事例紹介／解説を行ない、世の中の方向性を理解する					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義		演習	○	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○
ロールプレイ		P B L		反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	
その他					
成 績 評 価 の 方 法					
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度
評価項目					配点計
修了時テスト（筆記）			30%	10%	40%
随時テスト（筆記）			20%		20%
課題				10%	10%
受講態度				10%	20%
使用テキスト・教材					
『工場のしくみ』（日本実業出版社） 自作講義資料					

[illegible]

シラバス（授業概要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R2-K26
時間数は 4 5 分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Marketing マーケティング					国際 I T ・ C A D 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	1	鈴木 加絵	
授 業 の 目 的						
マーケティングは、企業及び他の組織がグローバルな視野に立ち、顧客との相互理解を得ながら、消費者の求めている商品を作り、価格や販売方法などを決める総合的な考えを指します。 「誰に、どのような価値を、どのようにして提供するか」を習得するために考察します。						
授 業 の 到 達 目 標						
(1) 正しい日本語で記述できる (2) マーケティングの基本を習得できる (3) 製造業にとってのマーケティングを習得できる (4) マーケティングにおける商品を知ることができる						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク	○	プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
定期テスト①（筆記）			30%			30%
定期テスト②（プレゼンテーション）			10%	10%	10%	30%
調査レポート			5%	15%	10%	30%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
なし						

[illegible]

その他
※実務経験がある教員が担当する科目である。

関連科目

シラバス（授業概要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R2-K27
時間数は45分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Financial Management					国際 I T ・ C A D 科	
財務管理						
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必須	30	1	朝倉 将貴	
授 業 の 目 的						
日本の企業に就職する際にライフプランニング、タックスプランニング等の基礎知識を理解していることが求められる。まずは、自分の将来設計について考え、税金、社会保険料、控除等について理解することが目的である。						
授 業 の 到 達 目 標						
給料明細を参考に、税金、社会保険、各種控除等の意味を理解する。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	○	
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	P B L	○	反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
修了試験			15%	15%		30%
随時試験			15%	15%		30%
随時課題			10%	10%	10%	30%
授業態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
随時、プリント配布。						

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授業概要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R2-K29
時間数は 4 5 分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Human Resources 2					国際 I T ・ C A D 科	
人的マネジメントと組織Ⅱ						
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	1	中村 真	
授 業 の 目 的						
社会人に求められる基礎的な力を習得し、マネージャーとして交渉力や調整力を発揮するするために、人間の行動の仕組みを理解し、日常生活におけるセルフコントロールと、他人との関わり方を効果的なものにする方法を学び身に付けていく。						
授 業 の 到 達 目 標						
(1) 企業の仕組みを理解し、出された指示に対して肯定的に捉える力を持つ。 (2) 依存ではなく自立した状態を作れる。 (3) 否定的な見方から客観的・肯定的視点に移行できる。 (4) 協働の概念を理解し、プロジェクトチームの一員として行動できる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
レポート			10%	20%		30%
途中課題			10%	20%		30%
ワークショップ実践			5%	15%	10%	30%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
『ビジネス選択理論能力検定 3 級公式テキスト』（アチーブメント出版） プリント資料、演習課題（講師作成）						

授業内容・授業計画

[illegible]

シラバス（授業概要）		年 度	2025 年度			
		科目コード	R2-K31			
時間数は 4 5 分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Sales Management 2 営業マネジメントⅡ					国際 I T ・ C A D 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	1	山田 穎二	
授 業 の 目 的						
マネージメントとは「組織に成果をあげさせるもの」。組織（CAD）の使命を知り、組織の使命から顧客の求めている商品を作り、価格や販売方法など総合的に考え利益について考えます。 「誰に・どのような価値を・どのようにして提供するか」を習得するために考察します。						
授 業 の 到 達 目 標						
(1) 正しい日本語で記述できる (2) マネージメントの基本を習得できる (3) 製造業にとってのマネージメントを習得できる (4) マネージメントにおける商品を知ることができる						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
定期テスト（筆記）			40%			40%
随時テスト（筆記）			50%			50%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
なし						

[illegible]

関連科目

シラバス（授業概要）				年 度	2025 年度	
				科目コード	R2-K34	
時間数は45分換算						
授 業 科 目 名				学 科 ・ コー ス		
Machinaly Control Practical Use 機械制御応用				国際 I T ・ C A D 科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	1	岡田 靖志	
授 業 の 目 的						
1 年次に学習したリレーシーケンスを基に、制御用コンピュータ「シーケンサ」のプログラムと制御方法の基礎技術を学習する。						
授 業 の 到 達 目 標						
・ シーケンサ用のラダー図を読み書きできる。 ・ シーケンサの基礎命令語を理解し、ラダー図をプログラムに変換できる。 また、プログラムからラダー図が書ける。 ・ 課題演習のラダー図が書ける。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
評価項目						
修了時テスト（筆記）			50%			50%
随時テスト（筆記）			40%			40%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
テキスト：リレーとシーケンサ 教材等：プログラム開発用パソコン、開発シミュレータ、シーケンサ実習機材						

[illegible]

[illegible]

[illegible]

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. N C工作機械と座標系	3		
2. 位置決めG 0 0と直線切削G 0 1	3		
2-1 プログラム演習 1	2		
2-2 プログラム演習 2	2		
3. 円弧切削G 0 2、G 0 3	4		
3-1 プログラム演習 3	2		
3-2 プログラム演習 4	2		
3-3 プログラム演習 5	2		
3-4 プログラム演習 6	2		
4. 工具径補正G 4 0、G 4 1、G 4 2	4		
4-1 プログラム演習 7	2		
4-2 プログラム演習 8	2		
4-3 プログラム演習 9	2		
4-4 プログラム演習 1 0	2		
4-5 プログラム演習 1 1	2		
4-6 プログラム演習 1 2	2		
5. 中間試験	2	○	△
6. ネームプレートの作成		○	△
6-1 C A Dによる図面設計	8		
6-2 プログラム作成	6		
6-3 シミュレーション	2		
6-4 N C機械加工	4		
7. ものづくり演習			
7-1 C A Dによる設計、部品図の作成	30		
7-2 工作機械による加工	40		
7-3 組立て及び修正	10		
7-4 動作確認	10	○	△
その他	関連科目		
	・基礎製図 ・製造技術 ・C A D基礎 ・C A D応用		

シラバス（授 業 概 要）					年 度	2025 年度
					科目コード	R2-K44
時間数は 4 5 分換算						
授 業 科 目 名					学 科 ・ コー ス	
Qualification test measures 2					国際 I T ・ C A D 科	
資格検定対策Ⅱ						
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	90	3	山田 隆博	
授 業 の 目 的						
C A Dを利用するための知識を持ち、さらに図面を正しく理解してC A Dを利用した作図を効率的にこなすことができる技能を証明できる試験制度として、2次元C A D利用技術者試験がある。このファーストステップとして「基礎」ランクがある。就職で有利にたつ資格を得るために、合格をめざす。						
授 業 の 到 達 目 標						
(1) C A Dシステムの知識と機能を理解している。 (2) C A Dシステムのプラットフォームについて理解している。 (3) 製図の知識を理解している。 (4) 図形の特徴を理解している。 (5) 2次元C A D利用技術者試験基礎に合格することができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L	○	反転授業	○	
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成 績 評 価 の 方 法						
評価観点 評価項目		知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計	
		検定試験（IBT）または修了時テスト（筆記）	40%	30%		70%
随時テストおよび課題（Forms）		10%		10%	20%	
受講態度				5%	5%	
出席状況				5%	5%	
使用テキスト・教材						
・『C A D利用技術者試験 2次元公式ガイドブック』（日経 BP） ・『やさしい機械図面の見方・描き方』（オーム社） ・三角定規とコンパス						

[illegible]

その他
この科目は、実務経験のある教員が担当する科目である。

関連科目
・機械C A D基礎 ・機械C A D応用 ・ものづくり演習

- ・機械C A D基礎
- ・機械C A D応用
- ・ものづくり演習